



特別支援教育に関わる研修会

～常に陰になって 子どもたちのために～



左から今澤真治先生
宮下祥子先生
石井めぐみ先生

支援員を対象に研修会を行いました。学校現場で担任をサポートし、さまざまな場面で活躍する支援員の皆様。特別に支援を必要とする子どもたちの学習面や生活面の支援を中心に行うため、今や学校現場にとって欠かせない存在になっています。

今年度もふじざくら支援学校の石井めぐみ先生と町学校教育課の就学相談員の今澤真治先生に講師を務めていただきました。一口に適切な指導や支援といっても非常に難しい。改めて、子どもたちへの関わり方について考えさせられる研修会となりました。貴重なアドバイスをたくさんいただきましたので、全職員で共有し、更に充実した指導・支援につなげていっていただきたいと思います。

感想の一部を紹介します



- 日頃思っていたことにこたえていただく内容が多く含まれていて参考になりました。特に情報共有する視点として、何を目標とするかという軸があることが大切だと感じました。日頃の中ではその場その場でのことがうまくいったかいかんが話題になりがちなので、支援員として心の声で聞こえるような関わりができるようになりたいと思いました。援助/介助から自立への部分がとても心に残りました。どこまでどのようにかわることで成長につながっていくのか、とても難しく思っていますが、心がけたいと思います。
 - 教育の場で、子どもの成長を見守り、支援するお仕事をしているという自覚を忘れずに子どもたちの近くにいる大人として、人として、私自身も学び続けていきたいと思っています。研修会ありがとうございました。
 - 普段は、特別支援の児童とはあまり関わっていませんが、どんな児童と関わる時も本日のお話を思い出して接していきたいと思っています。児童、教員ともコミュニケーションを多くとっていきたいです。良いところをたくさん見つけてたくさんほめてあげたいと思います。
 - 支援をする子どもの特性がそれぞれなので、その子に合った支援の方法を、関わりのある大人で情報を共有することが大切なんだと思いました。普段忙しい日々の中でなかなか時間がとれないので、そこは改善しておく必要があると思い、そうしようと思いました。
- ※気になることや悩んでいることがあっても、相談する時間もとれない状況があることが課題としてあがりました。

木工教室

一人一人の思いが形に ギコギコ トントン



ノコギリの使い方が上手になりました

今年度の木工教室が始まりました。講師は希代修先生、倉澤正徳先生、古屋庄一先生、渡辺正利先生。元校長先生の4名は、ご退職後も町教育センターの活動をサポートしてくださっています。また、野鳥の森公園の現園長さんや前園長さんにもお手伝いいただいております。活動場所は野鳥の森公園。学校で創作活動をするとなると、手間がかかって

なかなか大変ですが、野鳥の森公園では、用具も材料も全て揃えて子どもたちを迎えてくれます。

事前に設計図を書いて、その子なりの作りたいものを考えておいてもらいますが、当日材料から新たな発想が次々生まれ、思い描いていた作品以上の物が出来上がることが多々あります。子どもたちの豊かな発想に驚かされます。3年生は金槌の使い方、4年生はノコギリの使い方をメインに学習します。学校の学習以外でこうした道具を使った活動を行うことはほとんどないと言っても過言ではありません。この木工教室は、直接体験ができる貴重な時間になっています。



講師のアドバイスを聞きながら作業をする子どもたち



作品完成 ハイポーズ



役場見学 お礼の手紙 (一部を紹介します)

・ぼくは、町役場へ行きました。河口湖町のためにたくさんの人たちが仕事をしていました。子どもも未来創造館や図書館はとてもきれいで、たくさん家族と行きたいと思いました。いつも河口湖町のためにお仕事をしてくれてありがとうございます。



・役場やみらい創造館のわからないことを教えてくれてありがとうございました。

図書館の本は23万冊あると聞いてびっくりしました。役場には町の人たちのためにがんばってくれているところがたくさんありました。これからもがんばってください。

・3つの建物を案内してくれて、ありがとうございました。先生たちのおかげで、さらにわかりやすくなって、とても勉強になりました。しおりがあった

のでわかりやすくメモができたので、いろいろ教えてくれたりしたので、とてもよかったです。ありがとうございました。

